

詩篇119篇113～120節

- 113 私は二心の者どもを憎みます。しかし、**あなたのみおしえを愛します。**
 114 あなたは私の隠れ場、私の盾。私は、**あなたのみことばを待ち望みます。**
 115 悪を行う者どもよ。私から離れて行け。私は、**わが神の仰せを守る。**
 116 **みことば**のとおり私をささえ、私を生かしてください。私の望みのことで私をはずかしめないようにしてください。
 117 私をささえてください。そうすれば私は救われ、いつも**あなたのおきて**に目を留めることができますよ。
 118 あなたは、**あなたのおきて**から迷い出る者をみな卑しめられます。彼らの欺きは、偽りごとだからです。
 119 あなたは、地上のすべての悪者を金かすのように、取り除かれます。それゆえ私は、**あなたのだし**を愛します。
 120 私の肉は、あなたへの恐れで、震えています。私は**あなたのさばき**を恐れています。

סְעָפִים שְׁנֵאתִי וְתוֹרַתְךָ אֶהְבֶּתִי׃
 סִתְרֵי וּמְגִנֵי אֶתְּךָ לְדַבְרֶךָ יִחְלָתִי׃
 סוֹרוּ-מִמֶּנִּי מְרַעִים וְאַצְרֶה מְצוֹת אֱלֹהֵי׃
 סִמְכֵנִי כְּאִמְרַתְךָ וְאַחֲזֶה וְאַל-תִּבְשֵׁנִי מִשְׁבָּרֵי׃
 סַעֲדֵנִי וְאַנְשְׁעָה וְאַשְׁעָה בְּחַקֶּיךָ תָּמִיד׃
 סְלִית כָּל-שׁוֹגִים מִחַקֶּיךָ כִּי-שָׁקַר תִּרְמִיתָם׃
 סִגִּים הַשְּׁבֶת כָּל-רְשָׁעֵי-אָרֶץ לְכֹן אֶהְבֶּתִי עֲדוֹתֶיךָ׃
 סִמַּר מִפְּחָדְךָ בְּשָׂרֵי וּמִמְשֹׁפְטֶיךָ יִרְאֵתִי׃

第十五字「サーメク」は「S」に相当する子音字ですが、後で出てくる「シン」とは区別されます。まずはここに出てくる個々の単語の意味を調べてみましょう。

※括弧内：原型

- סְעָפִים (סעף) /セーフィーム (セーフ) …相反する感情 (考え) を持つ (示す)、分かれた、二心の
 סִתְרֵי (סתר) /シトゥリー (セテル) …覆い、シェルター、隠れ場、秘密
 סוֹרוּ (סור) /スールー (スール) …脇へよける、離れる
 סִמְכֵנִי (סמך) /サーメケーニー (サーマク) …支える、擁護する、維持する
 סַעֲדֵנִי (סעד) /セアーデーニー (サーアド) …支える、維持する
 סְלִית (סלה) /サーリーター (サーラー) …おろそかにする、脇に置く
 סִגִּים (סיג) /スイギーム (スイグ) …後ろ (どこか) へ移動する、がらくた、不純物、金かす
 סִמַּר /サーマル…逆立つ、震える

この箇所冒頭には「私は二心の者どもを憎みます」（113節）という印象的なフレーズが出てきます。「二心」とは、「心の割れた者」「半々の者」という意味の言葉で、どっち付かずの状態を指します。神と世の両方を愛そうとする姿勢であり、八方美人で一貫性がありません。このような生き方は、主イエスの山上の説教のことばに照らして言えば「心の清くない状態」（マタイ 5:8）であり、「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして」主を愛していない状態と言えます（申命 6:5）。これは、主とバアル神の両方に従おうとしていた旧約イスラエルの民を思い起こさせます。

エリヤはみなの前に進み出て言った。「あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。」しかし、民は一言も彼に答えなかった。（I列王 18:21）

主に信頼し切れない弱さが、不正によって利益を得る方向へと人を追いやっていくかもしれません。詩人はそのような現実が民の間にも存在することを知った上で、「あなたは私の隠れ場、私の盾」（114節）と宣言します。たとえ心に不安があったとしても、このように言葉に出してみることは大切です。自分が宣言したところにアジャストしていくことができるのです。「悪を行う者どもよ。私から離れて行け」（115節）。詩人を悪の道へと誘う甘い声が時折かかったのでしょうか。主の道から脇へ逸れさせようとする巧みな誘惑を払い除ける詩人の姿が目に見えます。

「ささえる」という言葉が単語を替えて116節と117節に登場します。神の側に着こうとすると、迫害に遭ったり、何らかの矢面に立たされることがあります。そのような危機に際しても主に誠実に生きようとしている詩人を支えてくださるよう、切に祈っているのです。

118節と119節では、「迷い出る者」「悪者」に対して「卑しめられます」「取り除かれます」という厳しい処置がなされることが予告されています。「金かすのように」とは、燃え盛る火の中で金属が溶かされ不純物が取り除かれることを表していますが、今はごたまぜになっている善と悪が最終的に分けられることを表現しているのでしょうか。主イエスが「毒麦のたとえ」の中で語られたように（マタイ 13:24-43）、見た目はそっくりでありながら偽物が混じっている状況が想定されます。毒麦だけを抜き取ろうとすると誤って本物の麦も抜いてしまう可能性があるため、終わりの日まで峻別は保留されていると言います。しかし、神の目をごまかすことはできず、真実な心で神と共に生きたかどうかその日に見極められるのです。

私たちは自力で真理に立ち続けることは困難です。主イエスの恵みに依り頼むところこそ、主の真実が私たちを覆い尽くすのです。詩人もまた不完全な人間でしたが、彼は旧約の時代にあっても「恵み」を知っていました。私たちの罪を赦し、ご自身の義を着せてくださる主と共に歩むところに、一貫した神への愛が生まれるのです。